

四條畷市まちづくり長期計画（教育施設を含む）
策定に向けたまちづくり意見交換会〔第8回〕

- 日 時：平成26年10月18日(土)14:00～
- 場 所：グリーンホール田原 なるなるホール
- 出席者：21名

<質疑応答>

- ・難しい説明内容であり、今回2回目の参加でようやく内容について理解が出来ました。恐らくこの意見交換会に参加した皆が十分に理解できたとは思われない。改めて説明する機会を設けていただきたい。この内容に田原地域の計画がない。田原では高校に通わせるのも大変であり、行きはコミュニティバスがあるが、帰りは便数も少なく不便である。利便性の向上を望みます。今後、少子化が進むことは理解できるが施設を減らせば不便になる。子供が減る前提であり、増やすための施策を進めてほしい。少人数学級についてはきめ細かな学習指導が出来、良いと思われれます。教員を増やしさらに魅力ある学校づくりを提案することもいいと考えられます。次に疑問に思うことです。地域を4つに分けることはわかるが、校区とリンクしていない。JRをまたいで通学しなければならない。なぜこのような校区となるのか。都市計画の観点で子どもたちを不便にすることはおかしい。また通学路の安全性をどのように確保するのか？最後に財政についても問題であると考えられます。財政的に厳しい中、大規模な再編を一気に進めるのは市民の理解を得るのが難しいのではないかと。
- ⇒現市長が就任して以降、子育て施策として子どもプロジェクトを始動し、支援制度に基づく具現化を図っている。またこども基本条例の制定に向け取り組むとともに総合支援センターの整備、0才から就学前の子どもを対象にドイツに関連するおもちゃの配布、来年度には子どもの医療費助成制度の拡充に向けた検討など取組みを進めている。
- ⇒今後のスケジュールについて、これまでいただいた意見やアンケートをどのように反映させていくか、また市民の説明の場について時期は未定ではあるが、今回の内容より具体にして説明したいと考えています。
- ⇒校区について、基軸を基本にした上でそれぞれの地域に学校を残す必要がある。また区長や自治会長へのヒアリングではまたがっている地域であっても育成会活動を割ることができないことから、少し入り組んだ校区設定となっているが、この内容が決定事項ではなく、今後の検討で決めていきたいと考えています。
- ⇒少人数学級もきめ細やかな指導という意味ではメリットは多く、現在も府を通じて国に学級定員の引き下げを要望している。市では少人数指導という形態で取組みを行い、府から加配の教員を確保し、教育を充実したものとしております。また教員の資質向

上も含め、これら取組みを前面に出していきたいと考えています。

⇒コミュニティバスについて、平成27年度には1台増車する検討で進めており、決定事項ではありませんが、これまでより10便程度増えるよう検討を進めています。

⇒財政面については、現状維持では2040年には400億円強かかると試算され、市民に負担がかからない方法として民間のノウハウを活かしながら費用対効果を見極め取り組んでいきたいと考えている。

⇒通学路の安全対策は最重要課題であると認識している。米崎踏切は今回の提案から外し、163号の高架下を横断するほか人的配置も含めて検討していきます。また通学路の暗さ対策としては都市整備部、学校、PTAとも連携しながら取り組みを進めていく方針です。

・南中を廃校して新小学校を新たに設ける考え方についてお答えください。

⇒2小1中という基本的な考え方を持って、このような計画を提案しております。

・長期計画には田原は含まれないのか？例えば運動公園や体育館など、計画はないのか？またこれら計画について資金はどのように考えているのか？建替えでは国の1/3の補助が入ると思われるが、民間を活用した取り組みでも補助金はもらえるのか？短期の計画には学校の再編があるならインフラ整備も必要ではないのか。また学校は市民が集えるコミュニティの場であるなら駐車場の整備も含めて検討していただきたい。

⇒短期では老朽化が著しい学校施設を計画し、中期以降には交通インフラや田原地域も含めて検討を行っていきます。400億円強は現状施設を維持していった場合の費用である。これら費用について今後精査をしていく方針であります。

⇒教育施設を整備する場合、国の補助として1/3の補助を受けることができる。残りの2/3については市の借金であり、今回の検討ではPFI手法を活用も視野に検討を進めていく方針である。民間の活力を活かした上で補助金を受けることはできます。足らずを民間の資金で整備し、分割返済し、支出の平準化を図るメリットが市にはあると考えられます。従来通りの整備とPFI手法で整備した場合を比較検討し、メリットの多い方を選択していきたいと考えております。

⇒校区再編に伴うインフラ整備も、原位置に建替える場合現状のインフラで良いと考えられるが、使用者数の変化等によっては必要に応じて整備する必要があると考えられます。

⇒小学校の駐車場整備については、少子高齢化によってより学校が地域と身近になるよう、図書館や地域が集える空間も重要な検討課題であると認識しています。また公園整備についても同様であり、これら検討を進めてまいります。

・主婦の感覚から言うと、2050年までにこれまで大規模に再編する必要があるのかと

感じます。またPFI手法の記載が一切なく、PFI手法は成功した事例が少ないにも関わらずなぜPFI手法で検討を行うのか？市民としては恐ろしいと感じます。大改造にお金をかけるのではなく、トイレや壁の修繕などにお金を使うべきであると考えられます。この資料には金額の記載もない。財政が厳しいのであれば四條畷市にあった改善計画を考えてほしい。

⇒従来のやり方で数年に1度の改修を行っていく方法と一気に再編する方法でどちらがメリットがあるのか、試算したうえで検討していきたいと考えています。PFI手法は428事例あり、全体的にみると費用の軽減が図られています。また直近の事例では門真でも取り組まれているが喜ばれていると聞いている。特に失敗事例は病院などを聞きます。

- ・南小からチラシを頂いた。校区再編には理解できない。通学の距離、坂、踏切、国道の横断など危険も多い。例えば自転車通学は良いのか？また中学校の選択はできるのか？
⇒距離については廃校することで近くなる方も遠くなる方どちらも出てくる問題である。例えば楠公から畷中へは35～40分かかると言われている。これまでたくさんのいただいております、再考する必要もあると認識している。自転車通学については被害者だけでなく加害者となるケースもあることから慎重に考える必要があると思われま。
- ・これまで複数回参加したが、若干の賛成意見はあったが大半は反対意見であった。まず、これら反対意見を踏まえ、再検討していただけるのか。それとも反対者への単なるガス抜きで終わるのか。教育委員会の審議会を1月に実施すると聞いているが、現在10月であり再検討する時間が少ないように思われます。この計画が遅れることはあるのか。今回の提案はこれら説明した内容ありきで進めているとしか思えない。これだけ大規模に廃校する案はおかしい。学校を建替えると莫大な費用がかかります。今ある施設を利用することが経済的であると思われま。東小と南小の児童数が減少していくことから1校の廃校はやむを得ないと思うが、今ある畷小をつぶして新庁舎を建設する必要は全くないと考えられます。財政難と言いながらこのような計画を実現することは無駄使いだと思います。校区についてはJRと国道163号を基軸としているが、国道163号は高架でくぐることもできることから基軸にこだわる必要はないと考えられます。例えば東小学校区の山側は畷小学校に、西側は南小学校へ通い中学校が南中学校に通えばよいと考えられます。また学校を防災拠点というなら、畷小、南小、南中を残すことでそれぞれの地域に防災拠点を確保することができると考えられます。今回の市の案では防災拠点が減り、駅近くの方はくすのき小まで行かなければならず、これで防災拠点として大丈夫なのか。これら大規模に改修するのは民間の提案だからではないでしょうか。新しい施設を作れば業者が得をします。それは市民の負担でもある。財政難であればこれ以上の負担はやめてほしい。立派な温水プールは費用もかかり本当に市民が望んでい

る計画なのか。また田原地域からは利用もしにくい。本当に必要として計画されているのか、財政状況にあった計画を望みます。

⇒複数の施設をそれぞれ維持管理するよりも施設を集約した方がメリットは十分にあると言えます。

⇒これまでいただいた数多くの意見を踏まえ、教育環境整備計画の策定に向け取り組むとともに、適宜市民にも説明の場を設ける方針であります。また1月頃を予定している審議会において判断をゆだねたいと考えております。

⇒先を見通した計画として、一世代先まで見通しつつあるべき姿を検討するとともに、JRと国道163号を基軸とした安全性を考慮した学校再配置、またコミュニティづくりや防災対応など地域のまちづくりにも寄与する整備計画であること、小中連携した教育を基本に校区を検討する4本の柱は基本としたうえで進めていく方針ではあるが、校区再編については再考したいとも考えています。

⇒防災拠点については、既存の学校体育館は残す方向で検討を進めております。また新小学校にも新たに防災拠点となる施設を設けるとともに、新たに設ける公共施設についても有事の際には活用できるよう整備していきたいと考えております。

- ・校区再編に納得のいかない地区長へのヒアリングも理解できるが子供の親目線も考慮していただきたい。子供には安全に通わせたいと思います。校区への一定の配慮とは身体的なものだけなのか、兄弟別々となった場合の配慮なのか、学校の選択制、制服なども含めた配慮なのか。

⇒区長へのヒアリングには育成会の課題もありました。PTA等とも2度ほど意見を頂いています。睨出前講座といった講座も設けており、既に申し出もいただいております。これらを活用していただきたいとも思います。

⇒配慮とは車いすなどを使用されている場合を想定しております。転校に伴う制服等の課題については、移行期間を設けるなど柔軟な対応を図っていききたいと考えています。また兄弟が転校する場合、離れることがないように柔軟な対応をまいります。

- ・温水プールや図書館の整備について、小学生と一般市民が利用することから安全性についての考え方を教えてほしい。PFI事業については、WTCの例など契約内容をしっかりしておかないと手抜きにされてしまうと考えられます。設計の審査体制についても答えていただきたい。また建設後の維持管理についても集中的に整備すると財政的には平準化とはならず財政的には苦しいのではないかと。

⇒まず、WTCはPFI事業ではなく、三セクであったと認識しております。

⇒再編に伴い維持管理する施設の母数が減ることによって平準化は図れると認識しております。

⇒安全性については、動線を分離する、時間帯を分離するといった安全対策を図り、市でも安全性の担保をしていききたいと考えています。

(以上)